

上巳の節句

2020. 3. 1

美幌町図書館長 竹花 史康

3月3日は、日本の伝統的な風習の五節供（ごせっく）の一つ桃の節句です。雛祭りとして、女子の健やかな成長を祈る年中行事で、ひな人形に桜や橘、桃の花などを飾り、雛あられや菱餅などを供え、白酒やちらし寿司などの飲食を楽しむ節句祭りですが、私は男兄弟でしたし、息子しかいなかったため身近なものではありませんでした。

正式には、上巳の節句（じょうみのせっく）といい、江戸時代になり女子の「人形遊び」と「節句の儀式」と結びつき、全国に広まったようです。

文学においても、ひな祭りが登場するものが幾つかありますが、真っ先に思いつくのは、有名な松尾芭蕉の句です。

草の戸も 住替る代ぞ ひなの家

芭蕉が旅にでるため、住み慣れた家を次の住人へ譲るにあたり、この家に家族連れが入居して、さぞ賑やかにひな祭りを祝うのであろう・
・と詠んだものです。そこには芭蕉の心優しさがうかがえる、とても心地よい句です。

